

よいち町

2026.9
No.220

議

会



だ

よ

い



※写真はこども達の文化発表の様子

第2回定例会・第3回臨時会の審議結果

○主な審議結果 P2～5

- ・余市町監査委員条例の一部を改正する条例案など2件の条例案を可決
- ・ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める要望意見書など7件の意見書を可決

○常任委員会の動き P6～7

○一般質問 P8～11

- ・8議員が町政全般について15項目を質問

審 議 内 容

令和8年第2回定例会 第3回臨時会

令和8年6月23日～25日に開催の第2回定例会での審議結果、5月26日開催の第3回臨時会の審議結果についてお知らせいたします。

人 事 案 件

□余市町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

任期満了に伴う次の方々の任命に同意しました。

(現)井川和彦氏
(現)池田裕之氏
(現)梅田徹氏
(現)落雅美氏
(現)片山裕氏
(現)川合一氏
(現)坂本純科氏
(現)土居義和氏
(現)野呂榮二氏
(新)弘津雄一氏
(現)細山正己氏
(現)松村宗雄氏
(新)森山龍徳氏
(新)梁瀬英司氏
(現)山本秀弘氏
(新)吉川丞治氏

補 正 予 算

一般会計

□令和7年度一般会計補正予算(第12号)【専決処分】
総額3億478万円を追加

◆主な補正内容

○寄附に伴う各種基金積立金
4億1440万円

○各特別会計の決算見込みによる精算

・介護保険特別会計繰出金
△4296万円

・国民健康保険特別会計繰出金
△241万円

・後期高齢者医療特別会計繰出金
△788万円

・水道事業会計負担金
337万円

□令和8年度一般会計補正予算(第1号)
総額514万円を追加

◆主な補正内容

○消耗品費
514万円

□令和8年度一般会計補正予算(第2号)【専決処分】
総額14万2000円を追加

◆主な補正内容

○損害賠償金
14万2000円

□令和8年度一般会計補正予算(第3号)
総額3億6275万円を追加

◆主な補正内容

○寄附に伴う各種基金積立金
2億9961万円

○再生可能エネルギー導入調査委託料
2563万円

○国民年金事務システム改修委託料
108万円

○備品購入費
176万円

○農業次世代人材投資資金交付金
2975万円

特別会計

□令和7年度介護保険特別会計補正予算(第3号)【専決処分】

総額2億6819万円を減額

◆主な補正内容

・保険給付費等の確定見込みによるもの。

□令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)【専決処分】
総額2億3218万円を減額

◆主な補正内容

・保険給付費等の確定見込みによるもの。

□令和7年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)【専決処分】
総額102万円を追加

◆主な補正内容

・後期高齢者医療広域連合納付金等の確定見込みによるもの。

□令和7年度水道事業会計補正予算(第6号)【専決処分】
収益的支出で9万4000円を追加

◆主な補正内容

・事業費の確定見込み等によるもの。

□令和7年度下水道事業会計補正予算(第4号)【専決処分】

収益的収入で286万円を追
加

◆主な補正内容

・下水道事業収益の確定見込み
等によるもの。

条例案

□余市町監査委員条例の一部を
改正する条例案

関係法令の改正に伴い、所要
の改正を行いました。

□余市町火入れに関する条例の
一部を改正する条例案

関係法令の改正に伴い、火入
れの制限ができるよう所要の改
正を行いました。

その 他	その 他
その 他	その 他

□工事請負契約の締結について

○令和8年度橋梁補修工事（第
3富沢橋・万歳橋）

契約金額 8360万円

工期 自 令和8年5月29日

至 令和9年3月19日

請負業者 株式会社古垣建設

○令和8年度町営住宅黒川団地
外壁改修工事（西棟）

契約金額 7271万円

工期 自 令和8年5月29日

至 令和8年12月25日

請負業者 中山建設株式会社

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

□損害賠償に係る和解及び損害
賠償額の決定について

【専決処分】

余市町が管理する道路の穴に
よる損傷事故による損害賠償に
係る和解及び損害賠償額につ
いて、それぞれ了承しました。

【行政報告参照】

行政報告

□損害賠償請求上告受理申立て
事件について

【令和8年5月26日開催第3回臨時会】

事件の概要といたしまして
は、本町に勤務していた職員よ
り、町の安全配慮義務違反の結
果損害を被ったとして余市町に
賠償を求められたもので、令和
7年9月に札幌高等裁判所で開
かれた控訴審において、町が損
害賠償責任を負うとは認められ
ず、相手方の請求を棄却する旨
の判決の言渡しがあったことを
受け、相手方が上告提起及び上
告受理申立てを行っていたもの
であります。

この間、町といたしましても
引き続き代理人弁護士に訴訟委
任し、最高裁判所の決定を待つ
ていたところでございますが、
去る4月23日、上告事由に該当
しないことを理由として、最高
裁判所において上告を棄却し、
上告審として受理しないとする
決定がなされたものであります。
本決定により、町の賠償責任
を否定した控訴審判決が確定し
ておりますので、ご報告申し上
げます。

□令和7年国勢調査について

【令和8年6月23日開催第2回定例会】

本町においては、調査区域と
して設定した178区について
国勢調査員121名により調査
事務を行いました。

このたびの行政報告につきま
しては、北海道並びに総務省統
計局から公表のありました人口
及び世帯数の速報値をご報告申
し上げるものでございます。

調査による10月1日現在の本
町の総人口は1万6486人で
あります。令和2年に実施され
た前回調査における総人口1万
8000人と比較して1514
人の減であり、減少率は8.4%
であります。また、世帯数につ
きましては8139世帯で、前
回調査と比較して144世帯の
減であり、減少率は1.7%で
あります。

なお、報告数値につきまして
は概数であり、今後公表される
数値と相違する場合があります
ことをご了承願います。

□損害賠償について

【令和8年6月23日開催第2回定例会】

本件は令和8年2月21日から
23日にかけて町道大川南2線、
大川町8丁目変電所付近及び大

川13丁目公園付近において、道
路上の穴により車両のタイヤ及
びホイール等が損傷する事故が
9件発生し、当該自動車の損害
賠償について関係者と示談交渉
を行ってまいりましたが、この
うち6件が損害賠償額について
示談が成立したことから、その
概要につきましてご報告申し上
げるものでございます。

事故発生後の経過ですが、現
場の穴の補修を早急に実施する
とともに、他の道路の路面状況
も併せて点検を行い、再発防止
に向けた穴埋め補修に取り組ん
だところでございます。

その後、それぞれの関係者と
話し合いを行い、9件のうち6
件について本町が損害賠償金を
支払うことにより和解すること
で合意に至り、令和8年6月1
日に地方自治法第180条第1
項の規定により和解及び損害賠
償額の決定について専決処分を
いたしましたところであり、残りの
3件につきましては、現在も継
続して示談に向けた交渉をして
いるところでございます。

今後におきましては、町道の
適正管理に、より一層努めてま
いる所存でございますので、議
員各位の特段のご理解を賜りま
すようお願い申し上げます。

審 議 内 容

□付託案件の審議結果

○議会の品位や秩序を乱す議会運営により次回議員選挙より議員定数の削減と早期議会解散を求める陳情書

吉田豊氏、吉田浩一氏より提出され第1回臨時会において議会運営委員会（茅根英昭委員長、寺田進副委員長）に付託し、審査を行っていた『議会の品位や秩序を乱す議会運営により次回議員選挙より議員定数の削減と早期議会解散を求める陳情書』については、第3回臨時会で委員長報告のとおり不採択としました。なお、委員長報告がなされた後、討論（賛成討論1名）がなされました。

○ジャストミートあたる議員に対する懲罰の動議

令和8年第1回定例会において懲罰特別委員会（土屋美奈子委員長、茅根英昭副委員長）に付託し、審査を行っていた『ジャストミートあたる議員に対する懲罰の動議』については、第3回臨時会で委員長報告のとおり戒告の懲罰を科しました。

戒告文

議員ジャストミートあたる氏は、3月18日開催の令和8年余市町議会第1回定例会において、広報広聴特別委員会設置案に対する反対討論の発言中、議会を侮辱する言辞を用い議会の品位を汚した。このことは、議員の職分に鑑み、まことに遺憾である。したがって、地方自治法第135条第1項第1号の規定により戒告する。

令和8年5月26日

余市町議会

議員派遣型の懇談会

どこでも余市町議会

【議員が出向いて懇談します。】

- ◎対象団体 町内で活動している5名以上の各種団体（例：区会、老人クラブ、各種経済団体等）
- ◎開催概要 場所は応募団体が指定する会場・時間は90分程度
テーマは応募団体の要望に基づくもの
- ◎申込方法 実施希望日の1ヵ月前までに議会事務局へ申込書を提出
（直接・郵送・FAX・メールのいずれかの方法）
- ◎その他 派遣に係る経費は無料です。
開催に係る会場費は、原則、応募団体の負担となります。

◎申込書は以下からもダウンロードできます。

<https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/gikai/gikaidayori/2024-0620-1303-26.html>



【これまでの開催概要】

- ・ かぜてくらぶ（大規模地震などの災害時の「災害弱者」の避難支援の取り組みについて）
- ・ 入舟第2区会（公共施設のあり方について（福祉センター入舟分館の今後について））
- ・ 豊丘町区会（余市町の再生可能エネルギービジョンについて）



かぜてくらぶ



入舟第2区会



豊丘町区会

議案に対する各議員の賛否一覧

各議員の賛否結果が分かれた案件（欠席・退席含む）を掲載しています。

第3回臨時会 議案に対する各議員の賛否一覧表

賛成：○ 反対：× 欠席：欠 退席：退

件 名	審議結果	明 政 会					よいち未来					公明党		会派議員	
		佐藤剛司	内海富美子	庄巖龍	中井寿夫	茅根英昭	山本正行	尾森加奈恵	岸本好且	川内谷幸恵	土屋美奈子	白川栄美子	寺田進	あじさたミート	大物翔
議員の品位や秩序を乱す議会運営により次回議員選挙より議員定数の削減と早期議会解散を求める陳情書	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
専決処分事項の承認を求めることについて (令和7年度余市町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○

※藤野博三議長は採決には加わりません。

要望意見書の審議結果

第2回定例会で提出のあった意見案についてお知らせします。

件 名	議案の提出者	審議結果	意見書の提出先
ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣 衆議院議長・参議院議長
北海道最低賃金改正等に関する要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	北海道労働局長
地方財政の充実・強化に関する要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣 衆議院議長・参議院議長
住宅宿泊事業に対する監督体制の強化と住環境保全を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣
すべてのケアラーに対する包括的な支援と法的枠組みの整備を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣
ドナーミルクの利用拡大を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣
住まいの安定と居住支援の抜本的強化を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣

※全会派の同意が得られた要望意見書は議会運営委員会の委員が提出者となっています。

常任委員会の動き

【総務産建常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

道の駅再編整備について調査を行いました。

【第9回】

(令和8年4月30日開催)

○令和8年度町道側溝布設及び舗装工事について(所管事務)

令和8年度の工事予定箇所について現地調査を行い、路線ごとの工事内容の説明を受け、現地調査終了後に審議しました。

(他の審議案件)
(所管事務)

○役場庁舎整備の検討について(報告案件)

○株式会社まほろば宅地管理公社の解散について

○余市町水道事業経営戦略の改定について

○第58回北海ソーラン祭りについて

【第10回】

(令和8年5月19日開催)

○宿日直業務における金銭紛失について(報告案件)

令和8年5月2日から5月6日までのゴールデンウィーク期間、日直業務中において火葬場使用料として受領した現金が紛失していることが判明し、経過としては、5月2日、4日、6日に死亡届が合計3件、葬儀業者から提出された際に、火葬場

使用料として受領した現金を休日明けの7日早朝に戸籍担当職員が確認したところ、現金が死亡件数と一致していないことが判明し、これを受け5月8日に警察に状況を説明した上で、5月11日に盗難事件として必要な届出を行っているとの報告を受けました。

○令和7年度除排雪等実績報告について(所管事務)

令和6年度の年間降雪量と比較して54センチメートル多くなっており、過去5か年間ににおける年平均の降雪量は35センチメートル少ない状況であることや、排雪実施期間は、前年度と同じ38日間行っているとの説明を受け、審議しました。

(他の審議案件)
(所管事務)

○統一的な基準に基づく令和6年度連結財務諸表について(報告案件)

○令和7年度における余市町情報公開条例の運用状況について
○道路上の穴に伴う損害賠償について

【第11回】

(令和8年6月16日開催)

○道の駅再編整備について(所管事務)

道の駅再編整備に係る進捗状況について、令和8年1月15日から2月5日に行ったサウンディング型市場調査には、町内を含む道内外の再編整備事業に興味を持った8者に参加いただき、(1)、事業手法、参画意向、(2)、採算性、施設機能、(3)、運営条件、(4)、地域連携、運営体制、(5)、差別化、施設の方角性、(6)、規模、敷地活用、(7)、主なリスクなど、事業として成立させるためには、採算性の確保や官民のリスク分担の設定、整備規模や機能の見直しの必要性などについて、より慎重な精査が必要との結果を得ており、基本構想の見直しの必要性も含めて検討しているとの説明を受け、審議しました。

○第42回味覚の祭典について(報告案件)

余市町農道離着陸場を会場として開催され、多くの来場者に支持されてきたところであるが、近年は会場設営に係る機材レンタル費や警備費などの運営費が大きく増加し、財政面で大変厳しい状況にあり、また特産品販売においても鮭や生筋子の不漁などの影響により十分な量の確

保が困難であることや、鮮魚や青果関係の出店者においても人手不足の影響により参加が難しいことなどを総合的に勘案し、総合企画委員会において令和8年度の味覚の祭典は開催を見送るとともに、今後の在り方について検討することと決定された旨の報告を受けました。

○ふるさと納税について(報告案件)

令和7年度実績について、件数が11万3969件、金額が約19億4418万円となり、前年度から1.27倍である旨の報告を受けました。

(他の審議案件)
(報告案件)

○余市宇宙記念館運営状況について

○余市町再生可能エネルギー導入事業化調査について



総務産建常任委員会現地調査

常任委員会の動き

【民生教育常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

一般ごみ・資源物の収集処理実績について調査を行いました。

【第8回】

(令和8年6月3日開催)

○第3次余市町立学校における働き方改革アクション・プランの一部改訂について(報告案件)

近年の深刻な教職員の長時間労働問題を受け、法改正により教職員の処遇改善と働き方改革の指針としての取組を確実に実施することが求められており、1つ目は、令和11年度までに月間の時間外在校等時間を平均30時間程度に削減することを目指した目標の設定、2つ目は、学校と教師の業務の検証、改善がより明確な基準でPDCAサイクルの推進が求められたこと、3つ目が、適正な勤務時間管理の徹底(留意事項の厳格化)で、教育委員会と学校が一体となって実態把握と適正管理に努める留意事項の新設、厳格化についてである旨の報告を受けました。

○旧余市福原漁場石倉屋根改修事業について(報告案件)

国指定史跡旧余市福原漁場は昭和57年2月12日に国指定史跡となっており、前回の整備から30年以上が経過し、特に石蔵については雨漏りや部材の腐朽、積雪による構造のたわみ等の深刻な老朽化が進んでいることから、

緊急的な修理を行うことで史跡の価値を損なう重大な破損や倒壊のリスクを未然に防ぐとともに、来場者の安全確保と一般公開を継続することを目的として実施する旨の報告を受けました。

○北しりべし相談支援センター事業実績について(所管事務)

障害者総合支援法により市町村必須事業として位置づけられている相談支援業務については、北後志5町村において特定非常利活動法人しりべし圏域総合支援センターに委託し、障がい者の自立や社会生活へ適応する取組などに向けて専門的かつ多様な相談支援業務を実施しており、令和7年度事業の実績について概要の説明がなされ、審議しました。

○小樽・北しりべし成年後見センター事業実績について(所管事務)

北後志6市町村を圏域とした広域での成年後見制度の利用促進と権利擁護に関する総合的な相談や支援を図ることを目的としており、令和7年度の実績についてその概要が説明され、審議しました。

○第10期余市町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のスケジュールについて(所管事務)

来年1月にパブリックコメントにより公表し、4月から開始し、5月の町広報やチラシ等により広く町民の皆様に計画の内容について周知、啓発を図る予定であり、在宅介護実態調査は在宅で生活している要支援、要介護認定を受けている方を対象として今年の6月下旬に調査票を配布予定であり、調査票の記入に当たっては、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、在宅介護支援センター宛てに協力依頼を予定しているとの説明がなされ、審議しました。

○後期高齢者医療保険料について(報告案件)

法令に基づき2年ごとに見直しが行われることとなっており、北海道後期高齢者医療広域連合において令和8年度及び令和9年度の保険料率の見直しが行われたことと併せて、令和8年度から子ども・子育て支援金制度が施行となり、子ども分も保険料率も新たに創設した旨、北海道後期高齢者医療広域連合より情報提供があったことから、その概要について資料に基づき報告を受けました。

○令和7年度一般ごみ・資源物の収集処理実績について(所管事務)

令和7年度の一般ごみ収集処理実績は、一般ごみ全体で約4644トン、前年度と比較して約209トン(約2.9%)の減であり、令和7年度の資源物収集処理実績は、資源物全体では約977トン、前年度と比較して約25トン(約2.5%)の減であり、一般ごみと資源物の収集処理量の過去5年間の推移は緩やかに減少傾向であること、また回収ボックスによる小型電子、家電の回収状況は令和7年度が1160キログラム(役場が230、公民館が670、福祉センターが260)であり、高齢などの理由により自らゴミステーションまで搬出することが困難な町民に対し、家庭ごみを戸別収集、安否確認を行うふれあい収集の実施状況は、認定世帯が令和8年3月31日現在で167世帯(単身世帯が144世帯、家族世帯が23世帯)であり、令和7年度の収集量は燃やすごみが1万5260キログラム、燃やさないごみが2180キログラム、資源物が4527キログラムである旨の説明がなされ、審議しました。

一 般 質 問

第2回定例会での一般質問は、8人の議員から15件の町政全般に対する質問がありました。

一般質問は、一問一答方式により、質問、答弁を合わせ制限時間45分の範囲内で行い、議会だよりに掲載している内容の要約は質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

尾森加奈恵 議員 (よいち未来)

土葬制度の現状と住民への情報提供について

質問 尾森議員 ①余市町墓地及び火葬場条例施行規則に規定する埋葬許可が、現在どのような運用されているのか伺いたい。

②墓地、埋葬等に関する法律に基づく本町の直近5年間の埋葬許可件数と、そのうち土葬に係る件数のほか、墓地、埋葬等に関する法律に基づく墓地管理者等からの毎月の埋葬・火葬状況報告は適切に受理、確認されているのか伺いたい。

③民間霊園であるよいち霊園で土葬を行う場合に必要な手続及び条件と、住民への制度や手続、衛生基準等の情報提供について町の考えを伺いたい。

答弁 齊藤町長 ①法令に基づく要件を確認した上で、死亡届を受理した市町村長が埋葬許可証を発行しています。

②直近5年間における本町の埋葬許可の交付実績はなく、埋葬・火葬状況については毎月報告を受けており、埋葬と火葬を区別して管理しています。

③よいち霊園は北海道が昭和60年に許可した民間霊園であり本町とは無関係で、埋葬許可証は死亡届を受理した市町村長が交付しますが、本町は土葬を積極的に推進する考えはないため、相談は個別に対応しますが制度の発信をする考えはありません。

道の駅整備の現状と今後の方針について

質問 尾森議員 ①サウンディング型市場調査では、道の駅単体での独立採算や指定管理料ゼロでの運営は困難との結果が示されたが、これを踏まえた今後の進め方と重点道の駅候補選定から7年が経過した現在の国との協議・連携の状況、国の支援の見通しについて伺いたい。

②現在の道の駅の駐車場や施設の魅力向上について町の見解を伺いたい。

③今後の方針をいつ頃、どのようにに町民へ示す予定なのか。

答弁 齊藤町長 ①サウンディング結果を踏まえ、採算性やリスク分担、公募条件などを整理し、基本構想の見直しも含めて検討を進め、引き続き国とは関わりながら、各種補助金を活用し道の駅整備を進めていきます。



新たな道の駅建設予定地

②利用者の視点を踏まえ、駐車場や案内表示など改善可能なものから順次対応します。

③時期は未定ですが、内部整理を進め町民の意見も踏まえながら将来の負担とならず、目的となる道の駅の実現に向け、できるだけ早期に方向性を示します。

大物 翔 議員 (無会派)

函館本線(山線の「廃線同意」撤回を決定するようについて

質問 大物議員 北海道新幹線札幌延伸をめぐる情勢は当初の見通しから大きく乖離し、新幹線着工5条件のうち財源、収益性、投資効果の3条件は事実上破綻状態にあることから、次の事項を伺いたい。

①国や道が掲げた新幹線整備の前提が足元から崩れてしまっているが、現状の認識について。

②バス転換への同意は、あくまでも地域への投資効果や代替交通の確保が前提の上での苦渋の決断だったと考えるが、3条件が実質的に破綻している以上、過去の同意の有効性は失われており、国や道に前提条件の再検証を求めるべきだと考えるが、見解について。

③運転手不足や運行コストの高騰により利便性を維持した代替バスの確保は極めて困難であり、今こそ町民の命綱である鉄路を守るためにバス転換への同意を正式に撤回し、在来線の存続を堂々と要求するべきではないか。

一般質問

答弁 齊藤町長 ①②政府与党において着工5条件を踏まえた各線区の基本方針が確認され、国土交通省が設置する有識者会議において審議されるものと認識しています。

③北海道新幹線並行在来線対策協議会後志ブロック会議において、新幹線の開業や新幹線ダイヤを踏まえた運行計画を検討しなければ、今後の方針は示せないと考えています。

質問 大物議員 町長自身はどのように考えているのか。

答弁 齊藤町長 迅速性と大量輸送が確保できなければ同意撤回する可能性があることは言っていますが、新幹線ダイヤが提示されない中で、バス路線やどのような交通体系になるかの議論はできないと考えますので、軽々な判断はできないと考えます。

質問 大物議員 新幹線の開業が延び、開業前に維持費に耐え切れなくなったJR北海道がバザライしてしまえば、我々は公共の交通手段だけを失うことになり、新幹線ダイヤが出るのを待つのではなく、鉄道を使ってもらえるように求めるべきだと考えるが、見解について。

答弁 齊藤町長 ブロック会議の中でも厳しく発言しており、

鉄路維持が全てではなく、町民の便益が守られるのであればやむなしとの立場なので、引き続き余市の便益を守る最大限のことをやっていきます。

佐藤 剛司 議員 (明政会)

閉校に伴う空き校舎の有効活用と地域活性化について

質問 佐藤議員 少子高齢化に伴い、義務教育学校や小中一貫教育など学校教育施設の再編が計画されている中、将来的に閉校となった学校施設を放置すれば町財政にのしかかる負の遺産となる懸念があるが、道立青少年体験活動施設「ネイパル」のような教育施設と余市の豊かな食、世界に誇るワイン産業などを組み合わせたりノベーションを行うことで、用途を広げ通年での稼働と地域経済への貢献が十分に可能と考え、次の事項を伺いたい。

①本格的な学校再編を見据え、先進的な成功モデルを確立してはどうかと考えるが、現状認識、活用に向けたグラントデザインについて。

②旧栄小学校について、通常時は宿泊機能を持った多用途教育施設、有事の際には機能的な避難所として稼働するフェーズブリーの視点を取り入れたリノベーションを提案するが、見解について。

答弁 高橋教育長 ①②空き校舎の有効活用については、今後の大きな課題であり、青少年体験活動施設は大変有意義な施設であると認識しておりますが、町主体での整備、運営は困難だと考えています。

質問 佐藤議員 民間事業者や指定管理制度などを使った官民連携方式でも困難であるとの認識なのか。

答弁 高橋教育長 民間等から提案をいただけた場合は、規模や地域への影響を総合的に判断できるもので、排除する考えはありません。

質問 佐藤議員 民間事業者の意向調査やサウンディング型市場調査等を行う考えはあるか。

答弁 高橋教育長 まずは学校の統廃合を優先したいと考えており、子どもたちの学ぶ環境づくりを最優先事項として教育行政の執行に取り組んでまいりたいと考えています。

質問 佐藤議員 閉校した施設を未活用の施設にするのか、地

域資源にするのかといった議論を学校の統廃合前から始めるべきだと考えており、統廃合後、スムーズに余市町の財産を稼げる施設として活用することを要望するが、見解について。

答弁 高橋教育長 方向性が見えた段階で、ご提案があった件も含めて早い段階で検討に入りたいと考えています。

土屋美奈子 議員 (よいち未来)

教育長の教育行政に対する基本姿勢について

質問 土屋議員 少子化や教師不足、不登校、いじめなど教育を取り巻く課題が多様化する中、本町の教育行政で最も重要な課題をどう認識し、どのように取り組む考えか伺いたい。

答弁 高橋教育長 本町の教育の根幹は人づくりであり、互いに尊重、協働しながら持続可能な社会のつくり手となる人材を育成することが重要と考えており、学校、家庭、地域が緊密に連携、協働し、子どもたちを社会全体で支える教育環境づくりを進めます。

質問 土屋議員 政治的中立性や独自性、一貫性を確保し、各学校の特色ある取組や学習支援について、見解を伺いたい。

答弁 高橋教育長 教育委員会の専門性と自立的な機能を発揮し、本町教育の独自性と中立性を守ることが重要と考えており、中学校区では小中学校が連携し9年間を見通した教育を進め、コミュニティ・スクールでは学校関係者やPTA等が学校運営や独自の取組を議論しており、各学校の独自性を生かしていくとともに、学習支援員については、児童生徒の学習状況に応じて支援し、底上げを図ることを主体としています。

質問 土屋議員 教職員の働き方改革について、第3次アクションプランの余市町独自の取組、教職員の声を反映する考え、また教師不足を国などへの働きかけることについて伺いたい。

答弁 高橋教育長 教職員の長時間労働や人員確保は教育の質を左右する極めて深刻な課題として認識しており、働く現場の声を聞くのは当然重要なことであり、管理職と現場の教職員双方の意見を反映することが必要と考えており、教員不足についても解消されるべき課題と認識しており、教育局等を通じて要

一 般 質 問

望していきます。

質問 土屋議員 教育長は子どもの学ぶ権利を守る責任者であると同時に、教職員が健康に働き続けられる学校を守る責任者でもあることから、所信を伺いたい。

答弁 高橋教育長 子どもたちの健やかな成長を最優先とし、不登校支援、いじめの未然防止と早期対応、ICTを活用した学習環境の整備などを進め、そのためにも教職員の健康管理や職場環境の整備は重要であり関係機関と連携して教育行政を進めます。

ジャストミートあたる議員 (無会派)

余市町の目指す教育の姿について

質問 ジャストミートあたる議員 学校適正規模・適正配置基本計画が策定されているが、学校再編の検討は現在の段階まで進んでいるのか。

答弁 高橋教育長 小中一貫校もしくは義務教育学校という2つの選択肢の中から結論を導いていくということになります。

質問 ジャストミートあたる議員 義務教育学校になった場合、1年生から9年生となり、飛び級はできないが、学年の枠を飛び越えた先取り学習というような学びは検討できるか。

答弁 高橋教育長 現在でも個別最適な学びといった部分をさらに進めていくということは必要だと考えています。

教育DXとベンダーロックインのリスクについて

質問 ジャストミートあたる議員 教育DXにおいて、特定事業者への依存、いわゆるベンダーロックインのリスクについてどのように認識しているのか。

答弁 高橋教育長 リスクにつきましては、教育データの標準化、相互運用性、データポータビリティの確保などを推進する方策が示されており、本町としてもこうした国の動向等に注視しながらリスク回避に努めてまいりたいと考えています。

今後執行される選挙に対する取り組みについて

質問 ジャストミートあたる議員

議員 候補者別得票調べに党派という項目があり、どこかの党に所属しながらも、党派に無所属と申請することについては虚偽の申告にならないのか。

答弁 網野選挙管理委員会委員長 党派については候補者の所属の実態そのものではなく、当該選挙における届出内容に基づき整理されるものであり、届出内容に応じて無所属として取り扱われることは虚偽の申告に当たらないと認識しています。

一元代表制の観点から議会と執行部のあり方について

質問 ジャストミートあたる議員 二元代表制において議会は監視機能を果たすことにより住民福祉の向上を図る制度であるが、議員と執行機関との懇親について町長の所感を伺いたい。

質問 齊藤町長 議員と執行機関との懇親については、制度の趣旨を損なわない範囲で行われるべきものと認識しています。

質問 ジャストミートあたる議員 非公式な懇親会は、緊張関係と信頼を損なうことになると思われ、一線を引いたほうがよく、今後やめる判断は可能か。

答弁 齊藤町長 判断について

は議員会の仕切りなので自由参加で参加するという立場です。

山本 正行 議員 (よいち未来)

余市町におけるヒグマ等対策について

質問 山本議員 人とヒグマのあつれきが高まる中、北海道ではヒグマの被害防止に向け、ガバメントハンターの配置、職員への特殊勤務手当創設の検討などを行っているが、本町においても有害鳥獣による農作物被害の増加や市街地出没、車両衝突事故など、生活被害なども発生していることから、次の事項を伺いたい。

①令和7年度ヒグマの捕獲数、出動回数について。
②本町におけるガバメントハンターの採用予定について。

③特殊勤務手当の創設について。
答弁 齊藤町長 ①令和7年度の捕獲数については13頭、出動回数についてはヒグマ防除隊員である猟友会余市支部のハンター同行の下、出没巡回や箱わな設置、捕獲に延べ54回の出動となっています。

②③ガバメントハンターの採用と特殊勤務手当の創出については現在予定しておりませんが、引き続き近隣自治体等の動向を調査研究してまいりたいと考えており、ヒグマ駆除に関しては、猟友会余市支部との信頼関係の構築に向けて町、猟友会及び警察の3者による連携強化に努めます。

質問 山本議員 余市町では幸いにも人身事故は起きていないが、農業被害が発生しており、ヒグマ対策は町民の命と財産を守るという観点から非常に大事だと考えているが、北海道では春期管理捕獲の実施、捕獲従事者の確保、育成のための研修会、ドローンによる空撮の検証、人とヒグマの生活圏のゾーニング、ライン等を活用した注意報の発令など取組を強化しており、町長はヒグマの捕獲状況やパトリール、箱わな設置に関する状況にどのような危険認識を持っているのか。

答弁 齊藤町長 危険は認識しており、町、猟友会、警察の3者で連携を深めることにより情報発信も含めてヒグマ対策を講じていきます。

質問 山本議員 ハンターの高齢化により技術継承がうまくいかないといった問題もあり、ハ

一 般 質 問

ンターの育成について考えはあ
るか。

答弁 齊藤町長 中期的な課題
であると考えており、活動の支
援の在り方については北海道の
制度も活用しながら、引き続き
研究していきます。

白川栄美子 議員 (公明党)

町営住宅(特定目的住宅)の 入居要件の見直しについて

質問 白川議員 本町の特定目
的住宅である黒川団地、美園団
地A棟・B棟は、現状入居率も
高く空きがないことから、次の
事項を伺いたい。

①高齢者の中には冬期間の除雪
に不安なく生活できることを重
視する方が多いと考えるが、こ
の状況に対して本町はどのよう
に捉えているのか。

②本町の特定目的住宅の入居要
件について。

③高齢者世帯向け住宅に空きが
ある場合、高齢者単身世帯で
あっても身体状況などを勘案し、
入居を認める運用に見直すべき
と考えるが、見解について。

答弁 齊藤町長 ①町営住宅入

居希望の高齢者世帯は、中高層
住宅の希望が多く、これは身体
的な除雪の負担が少ないことも
要因であると捉えています。

②原則公募となっておりますが、
災害による住宅の滅失、病気等
によって日常生活に身体上の機
能上の制限を受ける者となった
場合などの特定事由の要件に基
づいて個別に判断しています。

③現時点で運用の見直しは考え
ていませんが、入居や応募状況
を踏まえ、適宜特定目的住宅の
配置の見直しを行っています。

質問 白川議員 高齢者が相談
に来た際には体調の状況もある
ため誠意を持った対応をしてい
ただきたいが、見解について。

答弁 齊藤町長 相談は個別に
判断しますので、引き続き丁寧
な対応に取り組みます。

合同墓設置につ いて

質問 白川議員 合同墓の設置
に関わり、令和8年第1回定例
会で余市仏教会等の意見を伺い
ながら検討するとの答弁があつ
たが、どのように検討されたか。

答弁 齊藤町長 意見交換で町
内に合同墓や納骨堂が既に設置
されていることを確認しており、

仏教会からは慎重に検討してい
ただきたい旨のご意見をいただ
いています。

質問 白川議員 仏教会の意見
も大切だが、合意形成を終えて
設置に至った自治体もあり、将
来のお墓に不安を抱えている町
民に安心していただけるように
今後の見直しと方向性の決意を
伺いたい。

答弁 齊藤町長 丁寧に関係者
の合意形成、双方の状況を勘案
することが必要で、理解や状況
を見極めながら慎重に検討する
段階であり、現時点で時期や結
論を英断することはできません
が、引き続き検討を進めます。

川内谷幸恵 議員 (よいち未来)

基幹産業である余市町 の水産業について

質問 川内谷議員 現在、余市
町の水産業は後継者不足、海洋
環境対策、水産物の販路拡大、
物価高騰による資材と燃料の高
騰、海の変化など多くの課題を
抱えており、衰退に歯止めをか
ける対策が必要だと考え、次の
事項を伺いたい。

①今後10年、20年を見据えた水
産業の将来像をどのように描い
ているのか。

②ワイン産業と同じように、水
産業にも未来への投資が必要で
はないかと考えるが、見解につ
いて。

③町も一緒に海を守ってほしい
と考えるが、見解について。

答弁 齊藤町長 ①温暖化の影
響から魚種による水揚げ量の変
化はあるものの、本町の基幹産
業の一つとして引き続き本町経
済に十分寄与されていると予想
します。

②ふるさと納税の返礼品で本町
の水産物の知名度を高めている
ほか、水産資源の確保の一つと
してニシンやウニ二種苗の放流な
どに取り組んでいるところです。

③町として協力すべき関係機関
とも連携を図り、適切な協力が
できるような有効な取組について
検討していきます。

質問 川内谷議員 将来の子ど
も達にこの海をどう残していく
べきか考えなければいけないが、
どの程度の危機感を持っている
のか。

答弁 齊藤町長 水温や魚種の
変化に対応してきたのが余市の
漁業者の皆さんの取組だと考え
ており、引き続き関係機関と協
力しながら基幹産業である水産

業に取り組んでいく方針です。

質問 川内谷議員 町長は明る
い未来を想像しているが、私は
難しいと考えており、ブランド
化されたウニも10年後、20年後
にはいなくなるのではないかと
いった懸念があるが、そこを衰
退させず持続可能な水産業にす
るための考えはあるのか。

答弁 齊藤町長 企業などが相
談に来た際には魚組を紹介し、
余市のブランドを消さないよう
な取組は、町としても案件ごと
に対応しています。

質問 川内谷議員 漁業者が主
体的に行う漁場保全活動に対し
て、町には関係機関との調整や
情報提供、事業活用など積極的
に協力していただきたいが、見
解について。

答弁 齊藤町長 関係機関と連
携し、引き続き取り組んでいき
ます。

議会を傍聴してみませんか

《次の定例会は9月中旬です》

◆本会議は役場3階の議会事務局
で、傍聴人受付簿に住所・氏名を
記入するだけで傍聴できます。
傍聴定員は38人となっており、
会議当日の先着順となっています。



□民生教育常任委員会
先進市町村行政視察

民生教育常任委員会では、今後の委員会審査の充実を図るため、長野県信濃町で「義務教育学校について」、静岡県吉田町で「リーディングDXスクール事業について」、静岡県島田市で「島田市こども館について」それぞれ研修を行いました。

議会日誌

5 月

- 19日 総務産建常任委員会
- 19日 長野県飯山市議会行政視察来訪
- 20日 広島県竹原市議会行政視察来訪
- 25日 議会運営委員会
- 26日 第3回臨時会
- 26日 北後志消防・衛生施設組合議会
- 27日 北海道新幹線建設促進後志・小樽期成会総会
- 27日 北海道横断自動車道黒松内・小樽間建設促進期成会総会
- 27日 後志総合開発期成会後志要望行動
- 29日 後志総合開発期成会北海道要望行動

7 月

- 2日 北海道町村議会議長会議員研修会
- 7～10日 民生教育常任委員会先進地行政視察
- 8日 徳島県吉野川市議会行政視察来訪
- 23日 長野県東御市議会行政視察来訪
- 27日 北後志消防・衛生施設組合議会
- 30日 群馬県藤岡市議会行政視察来訪

6 月

- 3日 民生教育常任委員会
- 5日 後志総合開発期成会中央要望行動
- 9日 後志町村議会議長会臨時総会
- 9日 北海道町村議会議長会定期総会
- 15日 議会運営委員会
- 16日 総務産建設常任委員会
- 22日 議会運営委員会
- 23～25日 第2回定例会
- 24日 議会運営委員会
- 25日 広報広聴特別委員会

8 月

- 3日 国道229号余市・岩内・島牧間整備促進期成会総会
- 7日 北後志町村議会議長会第1回臨時総会
- 17日 広報広聴特別委員会

編集後記

余市町のワイン産業は現在、世界的な評価を確立し、町には新たな活気が生まれ、余市というブランドが世界へ広がっています。あることを実感しています。しかし、その華やかな成功の裏側では、人口減少・少子高齢化という大きな課題に直面しています。物価高や激動する国際情勢の影響は、基幹産業である農業や漁業をはじめ、余市町の暮らしにも直接及んでいます。今こそ地域の土台をしっかりと見詰め直すときです。世界から注目されるこの町だからこそ次世代を担う子どもたちの教育環境や、地域を守る土台が本心に盤石であるのか、あらためて真摯に問い直さなければなりません。豊かな地域は、決して突然どこから与えられるものではなく、日々の営みの積み重ねによって醸成されるものです。困難な時代だからこそ浮足立つことなく、町の等身大の強みを磨き上げることが重要です。議会としても、余市町で暮らす一人一人の声に深く耳を傾け、持続可能な未来を築くため、一歩一歩着実に前進し、この町の明日がより豊かなものとなるよう力を尽くしてまいります。

広報広聴特別委員会
副委員長 佐藤 剛 司